『先生が教えてくれたこと』

小城市立三日月小学校６年　藤嶋　真夕

私は、先生というのは、「児童に勉強を教え、誤った行動をしていたら注意すること」ということだけをすると思っていた。けれど、そうではなかった。

この小学校生活六年間を通して、いくつか気づいたことや教えたもらったことがある。「学校に来る意味。」私が考えたのは、自分のしょう来のために勉強をすることと、友情を深めるために友達と遊ぶ、ということをするため、だった。そう思っていた。けれど、先生が考えていたのはそうではなく、「立派な大人になるための人格を身につけるため。」だった。それを完成させるためには、人とうまくコミュニケーションをとること、生きていくために必要な知識や能力を身につけること、仲間と協力し、互いに助け合うことを当然のこととして認識する、という三つを身につけなければならないそうだ。

しかし、この３つは小学校、中学校で身につけることができる。だから私たちが立派な大人になるために、「先生」という人がいて、その先生は、生きていくために大切な存在だと分かりました。なので、私は残り少ない小学校と、中学校の生活を大事に過ごしていこうと思いました。

他にも、なんのために勉強するのか。自分のしょう来のため？そうじゃなくて「人のため。」だ。私は先生に教えてもらったからそう言うことができる。先生は、

「学ぶことは生きることにつながる。生きることは、人のために尽くすことであり、人の喜びにために自分の命を燃やすことである。ならば、学ぶことは、人のために尽くすことができる人になること。人の喜びのために自分の命を

燃やすことができる人になるということである。」

と、言っていた。その言葉が私を動かした。

先生が教えてくれたのはもう一つある。それは、私の「夢」だ。私は初めて絶対になりたい！という「本物の夢」が小学校生活を通して見つかった。私は、児童に勉強を教え、誤った行動をしていたら注意する、ということだけでなく、児童に立派な大人となるための人格を身につけさせるという責任感を持ち児童の役に立てるような先生になりたい。そのために「今」を大事に過ごし、人が学ぶということは、人生の一大事業であるということ忘れないで、心に留めて、勉強を一生けん命しようと思う。そして、先生の言葉も忘れず。心を燃やして、私の夢を追いかけていきたい。

いと思います。